

授業概要

現在、金融緩和・財政出動・成長戦略を駆使して、強い経済を作り上げようということが、安倍政権によって進められています。ところが、実際におこなわれているのは、日本銀行による「大胆な金融緩和」だけであると考えられます。たしかに、円安が進み株価も上昇してきました。たしかに、輸入価格は上昇しているものの、デフレはなかなか本格的に終わりそうにありません。

アメリカでのトランプ政権の登場でアメリカ経済と世界経済は大きく変わろうとしています。ヨーロッパでも難民の排除などを主張する政党が伸びています。変容しつつある現下の世界経済について詳しく議論します。

春学期は、世界経済と日本経済に関するテーマを定めて議論します。秋学期は、各自にテーマを設定してもらって、小論文の作成をしてもらいますが、これは卒業論文作成のための準備作業です。

授業計画

第1回	演習の概要	第16回	後期演習の概要
第2回	トランプ政権誕生をどう見るか	第17回	学術論文とは何か
第3回	ヨーロッパでの極右台頭をどう見るか。	第18回	テーマ設定の留意点
第4回	1980年代末の日本の資産バブル	第19回	文献検索の方法
第5回	平成大不況の長期化	第20回	テーマと概要の発表(1)
第6回	1990年代末のアメリカITバブル	第21回	テーマと概要の発表(2)
第7回	2000年代初頭の欧米の資産バブル	第22回	論文作成の留意点
第8回	世界金融危機の勃発	第23回	研究発表(1))
第9回	フル出動する欧米の中央銀行	第24回	研究発表(2)
第10回	デフレはマネー現象か	第25回	研究発表(3)
第11回	日銀の大胆な金融緩和	第26回	研究発表(4)
第12回	2%のインフレ目標は達成不能	第27回	研究発表(5)
第13回	インフレ高進の可能性	第28回	論文の作成の仕方
第14回	日本経済と日本経済のあり方	第29回	論文の作成と提出
第15回	前期演習のまとめ	第30回	演習のまとめ

到達目標

春学期は、アメリカでのトランプ政権誕生やヨーロッパでの極右台頭、などに揺れる世界経済と日本経済の本質的な問題点はどこにあるか、

ということの基本を理解してもらうことが到達目標です。

秋学期には、世界経済や日本経済に関するテーマを選び小論文を作成してもらいます。

その際、社会科学系の演習ですので、突っ込んだ議論に耐えられるような研究レベルの到達をめざします。

履修上の注意

現実の世界経済と日本経済の動きを取り上げて議論しますので、新聞は、必ず読んでください。日々、報道されるテレビやラジオなどのニュースにも関心を持ってください。取り上げるテーマについて事前に勉強してください。また、ゼミが終わったら、議論のまとめをしてください。

予習・復習

研究発表では、論旨を明快にするように準備し、批判された点はどこがおかしいか見直してください。

評価方法

演習での発表(50%)、発言(30%)や取り組み状況(20%)などによって評価します。

テキスト

テキストや参考文献は、必要におうじて演習中に指示します。

授業概要

本演習では、企業会計理論の学習を対象として、特に国際会計の全般的、基礎的の把握に努めるとともに、各自の関心分野についての問題意識の形成、問題の構築、問題の分析を行う。

授業計画

春期では、国際会計の基礎的知識をマスターするために、テキストを選定し輪読する。

秋期では、各自が関心をもつテーマについて報告と討論を行う。

また、年2回、レポートの提出を求める。

第1回	国際会計の意義と研究領域	第16回	IFRSの要点解説(P/L項目)
第2回	国際会計制度の沿革1(IASC)	第17回	IFRSの要点解説(P/L項目)
第3回	国際会計制度の沿革2(IASB)	第18回	各自のテーマの報告と討論1
第4回	主要国の会計国際化1	第19回	各自のテーマの報告と討論2
第5回	主要国の会計国際化2	第20回	各自のテーマの報告と討論3
第6回	主要国の会計国際化3	第21回	各自のテーマの報告と討論4
第7回	主要国の会計国際化4	第22回	各自のテーマの報告と討論5
第8回	IFRSの基礎知識1	第23回	各自のテーマの報告と討論6
第9回	IFRSの基礎知識2	第24回	各自のテーマの報告と討論7
第10回	IFRSの要点解説(B/S項目)	第25回	各自のテーマの報告と討論8
第11回	IFRSの要点解説(B/S項目)	第26回	各自のテーマの報告と討論9
第12回	IFRSの要点解説(B/S項目)	第27回	各自のテーマの報告と討論10
第13回	IFRSの要点解説(B/S項目)	第28回	論文作成の基礎1
第14回	IFRSの要点解説(P/L項目)	第29回	論文作成の基礎2
第15回	春期のまとめ	第30回	秋期のまとめ

到達目標

- ・発表レジメの作成及び発表能力の向上
- ・卒業論文作成の準備作業及びテーマの決定

履修上の注意

- ・毎回必ず出席してほしい。
- ・演習は参加型授業なので、積極的に、発言、議論してほしい。

予習復習

毎回の学習テーマについて予習及び復習をしてほしい。

評価方法

講義時の積極性やレジメ・発表のでき具合等を考慮して、総合的に評価する。

テキスト

- ・開講時に指示する。
- ・必要に応じて、プリントなどを配布する。

授業概要

進化を続ける医療技術や医薬品の開発、増え続けるチーム医療従事者や働き方改革の影響を受け膨らむ人件費等により、現在の病院経営は益々難しくなってきました。また患者側の要因としては、進む高齢化や家族関係の変化、在宅化や予防の重視など、新たな視点が求められ、種々の問題を抱えています。医療者一患者双方にとって Win-Win の関係となるには、どのような工夫や改善が必要であるか等、医療経営の質について学習していきます。さらに、個別研究テーマを持ち、文献研究やデータ分析を行いながら、論理的思考や批判的検討能力を醸成し、またグループワークを通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力向上を目指します。

授業計画

第 1 回	医療の意味と定義	第 16 回	医療の質評価（1）日本医療機能評価機構による病院評価
第 2 回	医療経営の特徴	第 17 回	医療の質評価（2）卒後臨床研修評価機構による診療の質評価
第 3 回	社会保障制度（1）生存権	第 18 回	医療の質評価（3）外国人患者受入れ認証制度による国際病院評価
第 4 回	社会保障制度（2）国民皆保険制度	第 19 回	欧米における医療の質評価：JCI(Joint Commission International)
第 5 回	社会保障制度（3）医療保険	第 20 回	隠れたヘルスケアシステム（1）中国医学
第 6 回	社会保障制度（4）介護保険	第 21 回	隠れたヘルスケアシステム（2）アーユルヴェーダ
第 7 回	社会保障制度（5）労災保険	第 22 回	隠れたヘルスケアシステム（3）ユナニ医学
第 8 回	社会保障制度（6）社会福祉・公的扶助	第 23 回	隠れたヘルスケアシステム（4）メディカル・ハーブ
第 9 回	欧米における社会保障制度	第 24 回	隠れたヘルスケアシステム（5）アロマセラピー
第 10 回	診療報酬制度	第 25 回	アロマセラピー①歴史
第 11 回	DPC	第 26 回	アロマセラピー②精油
第 12 回	オーダリングシステム	第 27 回	アロマセラピー③各種療法
第 13 回	電子カルテ	第 28 回	メディカル・ツーリズム（1）
第 14 回	医療情報システム	第 29 回	メディカル・ツーリズム（2）
第 15 回	医事会計部門	第 30 回	ヘルスケアのグローバル化（UHC：ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ）

到達目標

- ・医療経営とは何かを理解し、医療経営に関連する諸制度や政策を理解する。
- ・代替・補完医療を含むヘルスケアシステムの全貌を概観できる。
- ・ヘルスケアサービスのグローバル化について考えることができる。

履修上の注意

演習では、「医療事務技能検定試験講座」、「アロマセラピー検定 2 級講座」に関する内容にも触れます。これまでの演習においてヘルスケアビジネスについて学習してこなかった学生の皆さんも大歓迎です。

予習・復習

専門用語が多いので、事前学習及び各単元後の復習の習慣を身につけるようにしてください。

評価方法

試験（最終レポート含む）60%、小レポート及びプレゼンテーション 40%

テキスト

教科書は特に使用しません。必要に応じて指示し、必要な資料を配布します。

授業概要

テーマ：スポーツマーケティングの研究

この演習は、前期は、スポーツマーケティングにおいて、議論の多いテーマについて深く分析し、それらをどのように捉え、どう考えるべきかを学びます。後期は、各自がテーマを設定し、小論文またはビジネス提案を作成し、発表していただきます。

授業計画

第1回	演習の概要	第16回	後期演習の概要
第2回	マーケティングとスポーツの概念	第17回	小論文・ビジネス提案とは何か
第3回	スポーツ市場の特徴	第18回	テーマの選び方
第4回	マーケティング・ミックスとは何か	第19回	文献検索のやり方
第5回	観るスポーツにおけるメーカーとマーケティング戦略	第20回	テーマと概要の発表（1）
第6回	スポーツイベントのマーケティング	第21回	テーマと概要の発表（2）
第7回	スポンサーシップと「待ち伏せ広告」	第22回	小論文・ビジネス提案作成の留意点
第8回	スポーツチームのマーケティングと企業スポーツ	第23回	研究発表と討論（1）
第9回	スポーツ消費者としてのファンとリレーションシップ・マーケティング	第24回	研究発表と討論（2）
第10回	スポーツマーケティングにおけるパブリシティの役割	第25回	研究発表と討論（3）
第11回	するスポーツにおけるメーカーとマーケティング戦略	第26回	研究発表と討論（4）
第12回	スポーツ用品企業とフィットネスクラブのマーケティング	第27回	研究発表と討論（5）
第13回	するスポーツのマーケティングとしてのメディカル・フィットネスの可能性	第28回	研究発表と討論（6）
第14回	スポーツマーケティングの地域性とグローバル性	第29回	論文・ビジネス提案の作成と提出
第15回	前期演習のまとめ	第30回	演習のまとめ

到達目標

マーケティングとスポーツマーケティングの基本概念と論点を理解し、自ら調べ、考えることができるようになること、および、スポーツマーケティングに関する小論文を、自らの手で書き上げられるようになることを到達目標としています。

履修上の注意

演習は、①教員による解説、②報告担当者の報告、③参加者での討論で構成されます。演習には必ず出席すること、また、演習での報告や出された課題の提出は必ず行なうように注意してください。なお、30分以内の遅刻は認めますが、遅刻3回で欠席1回分にカウントされます。

予習・復習

予習としては、演習で配布した資料は事前に必ず読んでおくことが必要です。復習としては、演習で出された課題を提出するための勉強が必要です。また、演習が終わったら、そのテーマについて自ら考え調べたりしてみることを心がけてください。

評価方法

2/3以上の出席を評価の前提とします。そのうえで、小論文・ビジネス提案の報告・発表・提出（50%）、演習内容への参加や発言状況（25%）、課題への取り組み状況（25%）などによって評価します。

テキスト

スポーツマーケティングのテキストは現在準備中ですが本年度は間に合いません。適宜、資料等を配布します。

授業概要

本演習は、経済と経営は相互に不可分との認識に基づき、「経営学を学び、日本経済を知る」を基本方針として運営されています。これは、経営学、経済学のいずれかに軸足を置きながら、両分野を学べる本学の特徴をゼミ活動において体現したものです。

専門演習では、基礎演習で修得した経営学と日本経済の知識を発展させるとともに、卒論のテーマを絞り込み、発表技術や議論の作法もあわせて修得することを目的とします。前期は日本経済の特質を金融業界について考察し、後期は日本的経営の特質を、代表的な企業家の事例研究を通して考察します。

授業計画

第1回	ガイダンス 銀行の機能(1) —信用創造機能—	第16回	日本的経営の特質(1) —組織体制—
第2回	銀行の機能(2) —金融仲介機能—	第17回	日本的経営の特質(2) —人的管理—
第3回	銀行の機能(3) —決済機能—	第18回	日本の企業家(1)-三野村利左衛門-
第4回	証券会社の機能(1) —証券業界の歴史と構造—	第19回	日本の企業家(2)-小林一三-
第5回	証券会社の機能(2) —本来業務と付随業務—	第20回	日本の企業家(3)-石橋正二郎-
第6回	証券会社の機能(3) —証券会社の行為規制—	第21回	日本の企業家(4)-松下幸之助-
第7回	金融政策(1) —目的と手段—	第22回	日本の企業家(5)-大野耐-
第8回	金融政策(2) —貨幣経済と実体経済—	第23回	日本の企業家(6)-稲森和夫-
第9回	金融政策(3) —雇用と物価—	第24回	日本の企業家(7)-小倉昌男-
第10回	国際金融(1) —外国為替市場—	第25回	研究テーマの概要発表(1)
第11回	国際金融(2) —国際通貨体制—	第26回	研究テーマの概要発表(2)
第12回	国際金融(3) —国際金融実務—	第27回	研究テーマの概要発表(3)
第13回	現代の金融問題(1) —金融バブルの発生と崩壊—	第28回	研究テーマの概要発表(4)
第14回	現代の金融問題(2) —金融機関の破綻と再生—	第29回	論文作成の手法
第15回	演習のまとめ	第30回	演習のまとめ

到達目標

本演習の目標は、基礎演習で修得した経済・経営学の知識を深めるとともに、卒論のテーマに対する履修者の学問的興味を絞り込むことです。分析能力、プレゼンテーション技術、議論の作法等を磨くとともに、研究成果を論文にまとめ上げるための基礎技術を修得します。

履修上の注意

前期は講義を中心にテーマを決めて議論する方式を採用し、後期は履修者に割り振られたテーマを順番にレポートする形式で演習を進めます。履修者は積極的に演習に参加することが求められますので、レポーターでない場合も事前にテキストの該当箇所を読んでおくことが必要となります。

予習・復習

予習、復習中心とした知識修得を目指します。演習で修得した知識をさらに深めるためにも、経済、経営関連雑誌や新聞に注意深く目を通すことが求められます。

評価方法

前期末、後期末のテストあるいはレポートの結果を60%、演習への参画度や取り組み姿勢を40%の割合で評価します。

テキスト

【参考資料】

貝塚啓明・奥村洋彦・首藤恵著『金融[第2版]』（東洋経済新報社、2002年）。

授業概要

本ゼミは「財務会計の諸問題や企業の会計情報に関心のある学生が、卒業論文作成のための基礎知識を習得すること」を目的とする。財務会計の役割は、企業の経済活動を描写して、報告（情報提供）することである。3年次には、企業の経済活動に関する情報について『有価証券報告書』などを使用して財務会計に限定せずに指導する。（ただし、ゼミ生が財務会計に特化した内容を希望する場合には、下記計画のうちの春期の内容を財務会計中心のものとする。）

また、就職活動を考慮するとグループワークの演習は欠かせないと考えている。そこで、履修者の人数にもよるが、秋期にはグループによるレポート作成コンテスト（学外主催）への投稿を行うように指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス・上場企業について	第16回	夏季休業期間中の課題の報告
第2回	上場企業の選択と下調べ	第17回	上記報告を踏まえた課題の討論
第3回	有価証券報告書の概要	第18回	各自の課題に関連する業界研究①
第4回	主要な経営指標①	第19回	各自の課題に関連する業界研究②
第5回	主要な経営指標②	第20回	第20回から第23回は
第6回	沿革	第21回	上記検討を踏まえた資料収集・報告
第7回	事業の内容	第22回	・検討の繰り返し。
第8回	企業集団など	第23回	チームの統一テーマ・章立ての決定
第9回	業績の概要①	第24回	第24回から第26回は
第10回	業績の概要②	第25回	チームレポート作成のための
第11回	対処すべき課題	第26回	資料収集・報告・討論の繰り返し
第12回	事業リスク	第27回	レポートの完成・提出
第13回	秋期のためのテキストの輪読①	第28回	プレゼンテーション準備
第14回	秋期のためのテキストの輪読②	第29回	プレゼンテーション
第15回	まとめと第16回に向けてのガイダンス、夏季課題のガイダンス	第30回	卒論報告会への参加

上記項目は目安であり、進度により適宜変更・調整する。

到達目標

- ・『有価証券報告書』における「企業の概況」「事業の状況」の記載内容を知る。
- ・自らがテーマを探し、そのテーマについて共同作業でレポートを完成させる。（共同作業なのでチームにおける自分の役割を理解し、積極的に討論に参加する。）

履修上の注意

- ・専門演習は卒業までの2年間にかかわるので、登録前に必ず面談し、担当者の意図を理解した上で選択すること。
- ・ゼミの活動は通常の講義時間以外のエクステンションセンター主催の各種講座、学外での活動や懇親会への参加などを含む総合的なものであると考えているため、様々な履修指導を行う。

予習・復習

- 予習・春期：各自の選択した会社の『有価証券報告書』の指定部分の報告レジュメの作成。
- ・秋期：テーマに関する報告資料の検索と討論で説明・回答するための内容の検討。
- 復習・春期：報告レジュメに対する討論内容を反映したレポートの作成。
- ・秋期：テーマに対する報告内容についての共著レポートの作成。

評価方法

上記の予習・復習及び報告・討論・レポートの内容などの参加姿勢を加点材料とする。一定程度、達成できたと判断すれば、定期試験は実施しない。

テキスト

春期はEDINETから出力する。秋期は学外主催のレポート提出企画に参加予定であり、送付される小冊子を配布予定である（なお、受講人数が少なければ別に1冊購入する（書籍未定））。

授業概要

各自の問題関心を重視し、これに応じた論文作成指導を行う。受講者は、研究テーマを決め継続的に報告し、討議する。最終的に卒業論文の基本的な内容の完成を目指す。自分が最も関心を持つテーマを見極め、これについて自分の意見をまとめられるように指導する。

授業計画

第1回	演習のあり方についての説明	第16回	論文の構成を立てる
第2回	各自の問題関心を明確にする	第17回	論文の構成を立てる
第3回	各自テーマを決める	第18回	論文の構成を立てる
第4回	資料を収集し報告する	第19回	論文を作成し順を追って報告
第5回	資料を収集し報告する	第20回	論文を作成し順を追って報告
第6回	資料を収集し報告する	第21回	論文を作成し順を追って報告
第7回	資料を収集し報告する	第22回	論文を作成し順を追って報告
第8回	資料を収集し報告する	第23回	論文を作成し順を追って報告
第9回	論文に必要な理論の学習	第24回	論文を作成し順を追って報告
第10回	論文に必要な理論の学習	第25回	論文を作成し順を追って報告
第11回	論文に必要な理論の学習	第26回	論文を作成し順を追って報告
第12回	論文に必要な理論の学習	第27回	卒業論文の草案の完成
第13回	資料を収集し報告する	第28回	卒業論文の草案の完成
第14回	資料を収集し報告する	第29回	卒業論文の草案の完成
第15回	資料を収集し報告する	第30回	卒業論文の草案の完成

到達目標

卒業論文のテーマを確定し、資料を収集し、必要な理論を学習し、論文の草案を作成する。

履修上の注意

論文の報告を欠かさないこと。

予習・復習

各自ネット上からの資料収集を行うこと

評価方法

授業中の報告と発言による。無断欠席は認めない。

テキスト

授業中に指示する。

授業概要

日本の経済発展をリードしている企業として、トヨタ、ホンダ、日立、ソニーなどの大企業が浮かぶが、そこでのものづくりは多くの中小企業によって支えられている。たとえば部品が数万点を数えている自動車生産では、何万社という中小企業が部品生産に関わっている。また皆さんが持っているスマホは、国内生産ではなく海外生産品が大半を占める時代になっている。

本演習では、こうした日本のものづくりの基本的な特質と、グローバル経済の進展と共に激化している海外企業との競争という時代状況を、日本の大企業と中小企業の実態を学ぶことを通じて、今後の日本経済、日本企業の今後を展望できる能力を身につけることを目的としている。

授業計画

第1回	演習の概要	第16回	調査研究の基本について
第2回	日本産業と中小企業について①	第17回	調査研究のテーマ設定の留意点
第3回	日本産業と中小企業について②	第18回	文献検索の方法について
第4回	上記についての発表と討議	第19回	各自のテーマについての検討①
第5回	日本産業の海外展開について①	第20回	各自のテーマについての検討②
第6回	日本産業の海外展開について②	第21回	調査研究の発表の手順について
第7回	上記についての発表と討議	第22回	調査等の進行状況確認とアドバイス①
第8回	中小企業の海外展開について①	第23回	調査等の進行状況確認とアドバイス②
第9回	中小企業の海外展開について②	第24回	調査研究の発表と討議①
第10回	上記についての発表と討議	第25回	調査研究の発表と討議②
第11回	日本の地場産業の現状について①	第26回	調査研究の発表と討議③
第12回	日本の地場産業の現状について②	第27回	調査研究の発表と討議④
第13回	上記についての発表と討議	第28回	調査研究の課題と留意点
第14回	ゼミ生の関心事に基づく発表と討議①	第29回	論文作成に向けて
第15回	ゼミ生の関心事に基づく発表と討議②	第30回	演習のまとめ

到達目標

大学生として、自分で文献を読み、理解した内容をレポートにし、発表、議論できる能力を身につける。特定のテーマに関して、他人と自分の考えがどのように違うのかを理解する能力を身につける。

履修上の注意

私たちが生きている現代の経済社会では、解決しなければならない問題が山積している。なにが問題なのか、なぜ問題が解決できないのか、どうすればいいかの問題意識を持って、日本経済、日本産業、日本企業、中小企業の実態に関心を持つことが、本演習を履修する上で重要である。

予習・復習

- ・日本企業、中小企業に関する新聞記事等に関心を持つこと。
- ・各テーマごとに、問題意識を持ち、レポートなどにまとめる。

評価方法

- ・授業参加の姿勢や、レポート作成、発表等を総合的に判断して評価する。

テキスト

- ・テキストや参考文献については、必要に応じて演習中に指示する。

授業概要

中国経済について勉強する演習である。本を輪読し、議論する形式をとる。中国は最近 30 年間、持続的かつ急速な高度成長を成し遂げ、経済大国に成長し、注目を浴びているが、こうした経済発展のメカニズムや成長要因を解明するのが授業の目的である。特に「社会主義市場経済」とは何か、(典型的な市場経済とはいえない)中国経済の特徴は何か、「中国モデル」というべきものが果たして存在しているかどうか、などにスポットを当てて検討すると同時に、今後、解決しなければならない環境問題、所得格差問題などについても考え、議論していきたい。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション(演習内容、進め方、評価方法などの説明)	第 16 回	オリエンテーション(春期の振り返りと秋期の目標設定)
第 2 回	グローバル経済の中の中国経済①	第 17 回	中国の人口・労働力・雇用問題①
第 3 回	グローバル経済の中の中国経済②	第 18 回	中国の人口・労働力・雇用問題②
第 4 回	中国の改革開放政策の変遷①実験主義、漸進主義的手法	第 19 回	中国の「四農」(農業・農村・農民・農民工)問題
第 5 回	中国の改革開放政策の変遷②鄧小平の「先富論」	第 20 回	中国の戸籍制度①戸籍制度の成立過程
第 6 回	「社会主義市場経済」とは何か①「計画」から「市場」へ	第 21 回	中国の戸籍制度②戸籍制度改革と都市化
第 7 回	「社会主義市場経済」とは何か②株式制、証券取引所の導入	第 22 回	中国の戸籍制度③戸籍制度改革と「二重構造」の解消
第 8 回	「社会主義市場経済」とは何か③国有大企業の地位	第 23 回	環境問題①現状と対策
第 9 回	外国投資の役割①資本・技術・経営管理手法の導入	第 24 回	環境問題②経済大国としての責任
第 10 回	外国投資の役割②国際収支、雇用への貢献	第 25 回	エネルギー不足問題と新エネルギー開発の動き
第 11 回	地域開発と地域格差①	第 26 回	中国の「走出去」政策
第 12 回	地域開発と地域格差②	第 27 回	日中貿易関係
第 13 回	格差問題の現状と対策	第 28 回	日本の対中直接投資①中国事業の重要性
第 14 回	協調的な発展に向けて	第 29 回	日本の対中直接投資②中国事業のリスク
第 15 回	春期の内容のまとめ	第 30 回	秋期の内容のまとめ

到達目標

- 1、要領よくレジュメを作成できるようになる。
- 2、適切なコメントや疑問点を提出できるようになる。
- 3、中国経済に関する基礎知識を習得し、日本との異同点を理解できるようになる。

履修上の注意

- 1、報告内容に関連する補充資料の添付が望ましい。
- 2、報告内容に限らず、中国経済に関する幅広い議論を期待したい。

予習・復習

報告者でなくても必ず予定の内容を通読すること。

評価方法

授業参加の真剣さや積極性、発表準備の状況及び報告内容、授業態度、期末テストを総合して評価する。積極的に議論に参加せず、居眠り、無気力・無関心の履修者はマイナス評価になるので、注意してください。

テキスト

初回の演習時間に指定する。

授業概要

本演習では、近代経済学の手法を用いて経済を分析し、有効な政策を提言することができるようにすることを主目的とする。近代経済学の手法とは、統計的な方法を用いた計量経済学の手法のことである。例えば、経済活動水準が低いときには減税を実施すべきなのか、公共投資を実施すべきなのか。それを的確に判定するためには、現在の経済状況をモデル化する必要がある。

そのため、経済学の理論を習得するとともに、現実のデータを用いて経済分析をするための統計学の方法も駆使できるように指導する。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第17回	統計モデル解析の方法1
第2回	EXCELの復習1	第18回	統計モデル解析の方法2
第3回	EXCELの復習2	第19回	統計モデル解析の方法3
第4回	EXCELの復習3	第20回	統計モデル解析の方法4
第5回	EXCELの復習4	第21回	統計モデル解析の方法5
第6回	EXCELの復習5	第22回	統計パラメータの考察1
第7回	アドインソフトの使い方1	第23回	統計パラメータの考察2
第8回	アドインソフトの使い方2	第24回	統計パラメータの考察3
第9回	アドインソフトの使い方3	第25回	統計パラメータの考察4
第10回	アドインソフトの使い方4	第26回	統計パラメータの考察5
第11回	アドインソフトの使い方5	第27回	モデル分析の応用1
第12回	必要なデータの収集方法1	第28回	モデル分析の応用2
第13回	必要なデータの収集方法2	第29回	モデル分析の応用3
第14回	必要なデータの収集方法3	第30回	モデル分析の応用4
第15回	必要なデータの収集方法4	第31回	まとめ
第16回	中間テスト	第32回	期末テスト

到達目標

経営や経済のデータを分析するために、的確な統計モデルを構築し、計算結果を解釈することができるようになることが、本講義の到達目標である。幸い、EXCELには多様な統計処理ソフトが組み込まれているので、それらを有効に活用して適切な統計処理ができるようになってほしい。

履修上の注意

パソコンの実習が中心となるので、パソコンの操作（表計算とワープロ）は身につけておいてほしい。ただし、それらは必要条件ではないので、演習で指導をする。しかしながら、そうした受講生は人一倍努力してもらいたい。

予習・復習

毎回到わたって常に新しいデータを提示するので、取得したデータ分析の方法を適用して、予習と復習にあててもらいたい。毎回の講義の始まりに、課題について解説をする。

評価方法

出席状況とその時々には課す課題の提出状況を判断する。

テキスト

今のところは特定のテキストを指定することは考えていないが、演習の進行状況に応じてこちらから指定することがある。

授業概要

「経営戦略の理論と実践」をテーマとする経営学領域の演習である。

経営戦略とは、企業が存続発展するための重要な指針である。本演習では、将来社会で活躍できるビジネスパーソンを育成すべく、良い戦略と悪い戦略の違いについて書かれた文献を用いてその内容をじっくりと紐解きながら、「戦略とは?」、「戦略思考とは?」などを深く探究している。方法としては、分担にしたがって毎回担当者が発表し、全員で内容を吟味し議論するスタイルである。これらを通じて、読解力・コミュニケーション能力・文章力など社会に出る前に身につけておくべき基礎能力の養成も図る。

授業計画

第1回	概要	第16回	概要
第2回	良い戦略とは?	第17回	戦略の焦点
第3回	良い戦略とは?	第18回	戦略の焦点
第4回	悪い戦略とは?	第19回	戦略のダイナミクス
第5回	悪い戦略とは?	第20回	戦略のダイナミクス
第6回	強みの発見	第21回	戦略と慣性
第7回	強みの発見	第22回	戦略と慣性
第8回	戦略目標	第23回	戦略と仮説
第9回	戦略目標	第24回	戦略と仮説
第10回	戦略設計	第25回	戦略思考
第11回	戦略設計	第26回	戦略思考
第12回	プレゼンテーション	第27回	プレゼンテーション
第13回	プレゼンテーション	第28回	プレゼンテーション
第14回	プレゼンテーション	第29回	プレゼンテーション
第15回	総括	第30回	総括

到達目標

- ・経営戦略論の専門書を理解できる能力を身につける
- ・理解した内容をデータ化し解説できる能力を身につける。

履修上の注意

- ・指定する経営戦略の専門書を購入する必要がある。
- ・遅刻と欠席には厳しく対処する。

予習・復習

- ・発表者は発表内容を文書化し全受講生は文献を精読して来ることが予習である。
- ・復習として授業の内容をデータ化する。

評価方法

- ・プレゼンテーション能力の向上によって評価する。
- ・この評価には内容・形式・発言などを含む。

テキスト

ルメルト著『良い戦略、悪い戦略』日本経済新聞社

授業概要

本演習では環境会計・経営に関係した卒業論文作成の準備を行います。環境会計は企業の環境保全活動を費用対効果で定量的に測定し利害関係者へ伝達する仕組みです。春期は環境関連の基本書を輪読していきます。特に地球環境問題と持続可能な社会の形成に関することを学びます。秋期は環境会計の概要を学びその後卒業論文の作成準備を行います。実際の企業の「CSR 報告書」などを参考に卒業論文のテーマ選定をします。

授業計画

第 1 回	環境会計の社会的役割	第 16 回	環境会計の概要
第 2 回	地球環境問題と持続可能な社会とは何か	第 17 回	① 環境省の環境会計ガイドライン
第 3 回	地球環境問題① 人口、食糧、資源	第 18 回	② 環境会計のアカウンタビリティ
第 4 回	② 貧困、格差、経済	第 19 回	③ 環境会計と ESG 投資
第 5 回	③ 温暖化と低炭素社会	第 20 回	④ 環境会計のステイクホルダー
第 6 回	④ エネルギーと環境	第 21 回	⑤ 環境・CSR 報告書の読み方
第 7 回	⑤ 生物多様性の意味	第 22 回	⑥ 統合報告書の読み方
第 8 回	⑥ 循環型社会、廃棄物	第 23 回	⑦ 持続可能な会計情報の開示
第 9 回	持続可能な社会① 震災関連・放射性物質	第 24 回	卒業論文のテーマについて
第 10 回	② 環境保全の取り組み	第 25 回	卒論の書き方①背景と問題提起
第 11 回	③ 環境影響評価	第 26 回	卒論の書き方②先行研究の意味
第 12 回	④ 企業の社会的責任	第 27 回	卒論の書き方③資料収集
第 13 回	⑤ 環境マネジメント	第 28 回	卒論のテーマ報告会①概要説明
第 14 回	⑥ ISO14001：2015 版	第 29 回	卒論のテーマ報告会②概要説明
第 15 回	課題レポート	第 30 回	卒論のテーマ報告会③概要説明
春期	定期試験	秋期	定期試験

到達目標

- 卒業論文作成の準備ができること。

履修上の注意

- 毎週、テキストに沿った**レジメを作成**し報告をしてもらいます。
- 正課授業科目「環境会計論」は必ず受講して下さい。

予習復習

- 各人、テキストは事前に精読しておくこと。

評価方法

- 授業中の発言や報告内容、課題レポート等で総合的に評価する。
- 授業態度不良者等は「不可」とする。

テキスト

(基本書)

- ①環境省『環境会計ガイドライン 2005 年版』総合環境政策局経済課
- ②河野哲也『レポート・論文の書き方入門第 3 版』慶応義塾大学出版会など。
- ③各社の『CSR 報告書』などを使用する予定。

授業概要

マーケティングは企業活動においてなくてはならないものである。それは「(製品やサービスを) 売するための仕組みをつくること」がマーケティングだからであり、その対象となる消費者・顧客を学ぶ学問はマーケティングだけだからである。中小零細企業から大企業、学校から行政に至るまでマーケティングの考え方は応用できる。しかし、実際のビジネスにおいては、マーケティングは誤解され有効に活用されていないことが多い。何故そうになってしまうのか、それを企業の立場から検討していく。
 春期前半はマーケティングの基本について、事例を通して指導し、春期後半から秋期は各自設定したテーマについて検討し、卒業論文の構成を検討できるよう指導する。

授業計画

第1回	春期の演習の概要(初歩講義1)	第16回	秋期演習の概要
第2回	学生間の自己紹介(初歩講義2)	第17回	夏期課題の報告
第3回	マーケティング概念	第18回	ゼミ生による発表①-1
第4回	マーケティング戦略	第19回	ゼミ生による発表②-1
第5回	まとめ①	第20回	ゼミ生による発表③-1
第6回	市場機会の発見(環境分析とSTP)	第21回	まとめ③
第7回	4P	第22回	ゼミ生による発表①-2
第8回	サービス・マーケティング	第23回	ゼミ生による発表②-2
第9回	顧客満足と従業員満足	第24回	ゼミ生による発表③-2
第10回	まとめ②	第25回	まとめ④
第11回	論文テーマの選び方と文献検索の方法	第26回	ゼミ生による発表①-3
第12回	ゼミ生によるテーマと概要の発表①	第27回	ゼミ生による発表②-3
第13回	ゼミ生によるテーマと概要の発表②	第28回	ゼミ生による発表③-3
第14回	ゼミ生によるテーマと概要の発表③	第29回	まとめ⑤
第15回	春期演習のまとめ (夏期課題)レポート提出	第30回	演習のまとめ
		第31回	レポート提出

到達目標

春期前半はマーケティングの基本について事例を通して理解し、春期後半から秋期にかけて卒業論文を書くための準備として発表とディスカッションを繰り返し、卒業論文のテーマと目次構成を決めることを目標とする。

履修上の注意

- ①春期に1度特別講師を招き講演して頂く。その講演をもとに、さいたま市ニュービジネス大賞(学生部門)にエントリーし、最終発表会を見学してもらう。
- ②GWや夏期休暇中に、学外授業として企業訪問等に参加してもらうことがある。
- ③川口Fes.のボランティアや自治体主催のビジネスコンテストの見学などに参加してもらうことがある。
- ④正当な理由がなく遅刻する学生には厳格に対応する。また無断欠席は認めない。
- ⑤課題の〆切を守らない者については厳格に対応する。
- ⑥課題レポートのコピペには厳しく対処する。

予習復習

- ①レジュメは各自インターネットからダウンロードして準備してもらう。利用方法は講義で説明する。
- ②夏期・冬期休暇に課題あり(指定書籍各休暇2冊(計4冊)の読了とその感想)。
- ③秋期授業では各自の卒論のテーマに関連する書籍を3冊以上読み、ゼミでその内容を発表してもらう。
- ④その他毎回の講義の中で事前に課題を指示する場合がある。

評価方法

授業態度(50%)、提出課題の内容等(50%)により、総合的に判断し評価する。

テキスト

テキストや参考文献は必要に応じて演習中に指示する。